

問 公共下水道事業推進は

答 供用開始説明会で接続を促す



伊藤 千春 議員 無会派

問 過去2年間の公共下水道接続率は。

答 (建設部長) 令和4年度49・4%。令和5年度49・1%。

問 令和5年度に接続率が下がったのは。

答 人口の多い区域で供用開始したため。

問 未接続世帯の戸別訪問を実施しては。

答 供用開始の早い区域から順番に行っている。

問 未接続に対し、過去2年で戸別訪問を実施した件数は。

答 令和4年度、106件。令和5年度、112件。

問 未接続最大の理由は。排水設備工事の資金不足。

答 アンケート調査実施は。戸別訪問の際に実施。

問 水洗化を推進していくための取組は。

答 供用開始説明会を行っている。

問 支払いが困難な人への取組は。

答 下水道事業宅内配管整備資金融資あっせん制度を設けている。

問 融資あっせん制度を利用した現在までの利用者数は。

答 1件。

問 合併浄化槽維持費と同等の年間費用なら、公共下水道使用料と合併浄化槽維持費を比較してどちらが有利か。

答 4人家族一戸建て住宅の想定で、年間9200円ほど公共下水道使用料の方が安くなる試算。

問 公共下水道事業普及の取組は。

答 やとみ秋まつりでプー入出展など。

問 本市の熱中症対策の現状は。

答 (健康福祉部長) 熱中症注意喚起を市ホームページや広報やとみに掲載。

問 *フリーリングシエルトー導入の現状は。

答 (市民生活部長) 11の公共施設のエントランスホール、ロビーなどを休憩場所として一般に開放。また、パティオと協定を結び指定。

問 熱中症による過去3年間の救急搬送件数と症状の程度は。

答 (健康福祉部長) 令和3年度、軽症11件、中等症8件、重症1件。令和4年度、軽症21件、中等症30件、重症1件。令和5年度、軽症26件、中等症14件、重症1件。

問 命に関わる危険な暑さ対策は

答 注意喚起・啓発に努める



***フリーリングシエルトー**
危険な暑さから避難できる場所として、市町村長が指定した施設。